

12/4 木曜

首相と面談「強く要望」

学術会議総会 6人任命求め文書

東京都内で開かれていた日本学術会議の総会は2日目の3日、任命を拒否される前に候補6人の任命と、政府との新たな関係構築を求めるため、岸田文雄首相に櫻田隆章会長との早期の面談をめましめた。

この要望書は、新内閣の発足を機に、対話的により良い役割を果すための取り

決したいと表明。日本学術会議法が定めた会員数210人を満たさない状態がこのまま長期化すれば、「本会議の活動に重大な支障を及ぼし続ける」となり、日本の学術や社会の発展にとっても大きな障害になりかねません」と危機感を示しています。

この要望書は、新内閣の発足を機に、対話的により良い役割を果すための取り

会を求めています。
昨年10月に任命拒否問題が発覚して以降、学術会議は要望書、幹事会声明、総会声明を出し、繰り返し6人の即時任命を請求してきましたが、政府から学術会議への正式な回答

や説明はないとこります。
総会後の記者会見での率直な意見交換の機会について、即時任命を求めるこれまでの声明と基本的な立場は変わっていないと強調しました。

組みを進めている点を強調。温室効果ガス排出量ゼロや新型コロナウイルスへの対応など、国際生活に大きな影響を与える課題に直面する中、政府との「建設的な信頼関係」のもと、より良い社会の実現に向け力を合わせたいと要望しています。

その上で、任命問題が

「その妨げ」となってはならないと述べ、任命問題を含むあわま